

女性活動の合いこば

- 一、手と心をつなぎ、明るく豊かな町をつくりましょう。
- 一、互いに人格を認めあい、奉仕の心を養いましょう。
- 一、からだをきたえ、人生に希望と誇りをもちましょう。
- 一、お年寄りを敬い、子供を愛し、円満な家庭をつくりましょう。
- 一、力を合わせて、薫り高い郷土の文化をつくりましょう。

標茶町女性団体連絡協議会機関紙



第187号 平成31年1月1日

標茶町女性団体連絡協議会

発行責任者 会長 千葉 博子 標女連広報委員会

新年を迎えて

標女連会長 千葉 博子

皆さん、あけましておめでとうございます。

新春を新しい気持ちで迎えられたこととお慶び申し上げます。今年はいのしし年ですが、穏やかな年になると良いですね。

さて、昨年中は標女連の活動に対し、たくさんの方たちのご支援・ご協力をいただき、役員一同厚く感謝申し上げます。

エプロンピックや男女平等参画標茶集会、釧女連への参加など、町内にとどまらず活動してまいりました。昨年は、胆振東部を中心とした地震の影響で、全道女性大会が中止になりました。被害に遭われた方へ心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っております。3月3日に予定しております「女性のつどい」は、例年たくさんの方に参加いただき、称賛の声を頂いております。現在、企画を検討しておりますが、多くの方の参加をお願いいたします。今年も、標女連の活動を楽しく意義あるものにしていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

エプロンピックに参加して

塩原 トシ子

10月12日にエプロンピックを行いました。今回は博物館「ニタイ・ト」と、阿歴内の水耕栽培でニンニクを作っている所を見学しました。

博物館は、標茶の歴史や動植物のすむ環境などの展示物がありました。自然環境について見直すことができました。

ニンニクは、一粒のニンニクから20cmくらいの茎が出ている物でした。茎や根も全部食べられます。調理法は普通のニンニクと同じですが、臭みが少なく茎も柔らかく、とてもおいしいです。また、栄養価も変わらず期待される一品になります。

昼食を食べて、少し早めの帰着でした。平日の開催でしたが、たくさんの方の参加をいただきありがとうございます。

男女平等参画標茶集会に参加して

加藤 まり子

11月10日に男女平等参画標茶集会が行われ、その中で「生き生き百歳体操」を実施しました。椅子に腰をかけて手足を動かす運動で、息をきらすことなく座ってできるもので

した。運動指導員の竹越さんの元気な掛け声の下、準備体操、筋力運動、整理体操の3つの運動を行いました。筋力をつける、つまずきや転びにくい体になることで、骨を折って寝たきりになることを防ぐことにつながるようです。

負荷をかけるためにアドバイザーの川口さんが、砂入りのペットボトルを用意してくれました。後半は、みんな「あなたがたごさ」を歌いながら手を叩き、じゃんけんをしました。同時に2つのことをすると、脳が活性化し、認知機能の衰えを防ぐ効果があるそうです。手足がバラバラになりかけ、大いに笑い合いました。一人では長続きしない体操も、仲間がいれば、広がり根づかせることができます。周りも思いました。

週2回ほどでよい百歳体操。これが続けながら、いくつになっても生き生き健康やかな日々を送りたいものです。

釧路管内男女平等参画フォーラムに参加して

山口 紀子

11月14日に開催されたフォーラムに標茶から4人で参加しました。今回の開催地は鶴居村です。胆振東部地震の影響で全道女性大会が中止

になり、釧路管内女性大会が併せて開催され、110人の参加者がありました。

講演は釧路警察署員と鶴居駐在所長から、あおり運転やオレオレ詐欺などの被害防止について学びました。女性が襲われた時はとりあえず逃げることと助けを呼ぶことが大事で、決して戦わないでくださいとのお話に笑いがおこりました。

午後からは釧路フォークダンス愛好会25人のパフォーマンスを見たり、指導をいただきながら輪になって2曲を踊りました。

協議会の柿崎会長から、胆振東部地震被害3町に対して会から義援金を届けた報告がありました。関係者の皆さんに感謝申し上げます。

会の動き

予定

- 1月上旬…役員会
- 2月上旬…理事会 / 「女性のつどい」町内会案内・ポスター掲示
- 2月中旬…役員会
- 3月1日…女性のつどい 準備
- 3月3日…女性のつどい
- 3月中旬…役員会

平成30年度

全国学力・学習状況調査 調査結果のお知らせ

今年度も、文部科学省による全国学力・学習状況調査が実施され、本町の小学6年生、中学3年生が参加しました。この調査で測定できるのは学力の特定の一部であり、学校教育の側面ではありませんが、調査結果を今後の教育活動の改善に向けて活用していきます。

調査の概要

■実施日

平成30年4月17日

■調査実施児童生徒

町内の小学6年生70人
町内の中学3年生57人

■調査の内容

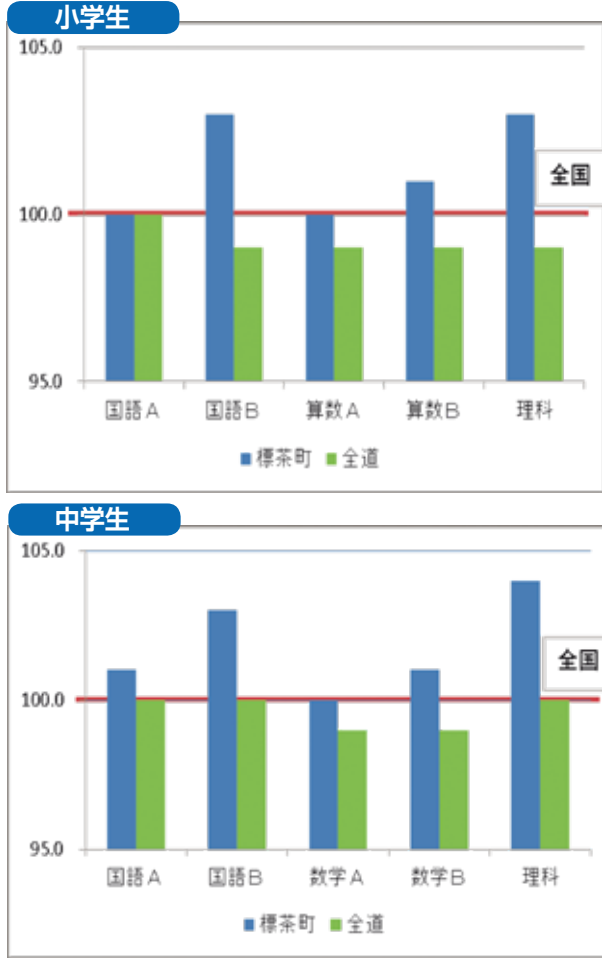
①教科に関する調査

- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A、理科）
- ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B、理科）

②生活習慣や学習環境などに

- ・関する質問紙調査
- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

表1 教科に関する調査の結果（全国平均を100として）



調査の結果

表1の通り、小中学生ともに全ての教科において、全国平均と同等かそれ以上の成績を収めました。

学校質問紙調査の結果から、町内全ての学校で「児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価することができていくことが成果の一つ

児童生徒の意識の変化

全国的な傾向として、「規範意識」や「自己有用感」が課題といわれてきました。

・自分には良いところがある

小学生94・3%（全国84・0%）
中学生86・0%（全国78・8%）

に挙げられます。

また、ほとんどの学校で学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えていることにより、チャレンジ精神や最後まで諦めない心の成長が感じられます。

・先生はあなたの良いところを認めてくれている

小学生90・0%（全国85・3%）
中学生40・4%（全国32・5%）

このように、本町の児童生徒は自分の頑張りを先生方に認めてもらっていると感じ、さらに努力をしようとする態度が育ってきているといえます。そのことが自己肯定感の高まってきた一つの要因ではないでしょうか。ぜひ、ご家庭でも子どもたちの頑張りを認め、褒めることを通して、子どもたちの成長を支えていただけたらと思います。

表2 設問「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の結果

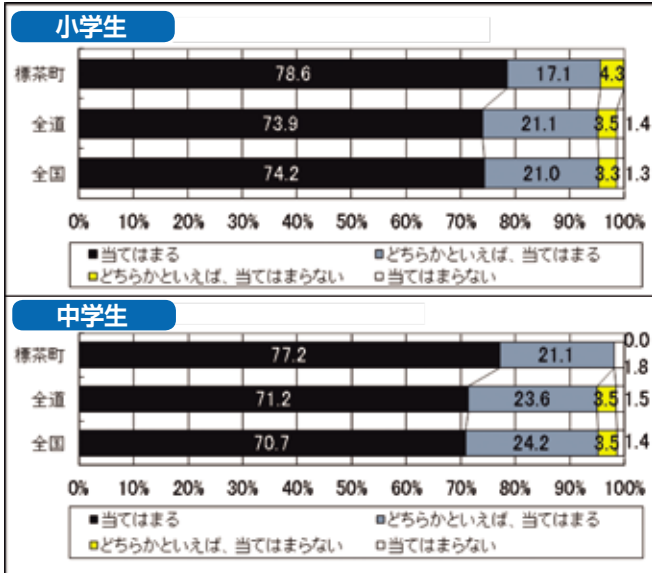


表2から子どもたちは、認められ、褒められる経験を積みむことで「自己有用感」も併せて育ってきていると考えられます。家庭や学校、地域の中で、人のために役立った経験を積み上げてあげることができたらと思います。本町の子どもたちは学力だけではなく、心の面でも成長をしています。今後とも、子どもたちの健全育成のために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を發揮して協力し合うようご理解とご協力をお願いします。